

愛しきふるさと 心はいつも共に

～第24回ふるさと大榎会～

12月10日（土）、首都圏に住む当町出身者などで構成される「ふるさと大榎会」（金崎雄三郎会長）の総会、交流会が東京都の新日鐵代々木倶楽部を会場に開催されました。役場で保管していた会員名簿が流失し、案内も満足に出せない状況の中、会員の皆さんが声をかけ、連絡を取り合って、会場には、例年を大きく上回る130名以上が集まりました。

交流会では、町が復興基本計画の流れや地域協議会からの計画案を紹介し、参加者は地元の図面を見つめ、真剣に質問や意見を交わしていました。会の最後には、当町出身の歌手、佐藤ひろ美さんがリードし、「ふるさと」を合唱。家族や地元を思い、涙する姿が見えました。

ふるさと大榎会では、会員の寄付により、大榎町の学校に備品を寄贈するなど、多くの支援を行っており、今後も活発に活動していきたいとのことです。

例年以上の大盛況の中、幕を閉じたふるさと大榎会。遠く離れていても、私たちと同じように大榎を愛し、私たちの心に寄り添うように復興を願っている人たちの姿が、そこにはありました。



町方地区出身の皆さん



安渡・赤浜地区出身の皆さん



吉里吉里地区出身の皆さん



大ケ口・小鎚・金沢地区出身の皆さん

▼ふるさと大榎会に行ってきた。会長、役員の皆さんのお声掛けにより、集まった出席者の数はなんと130名以上。会場の容量を超える大変にぎやかな会でした。▼お話を聞いていると、私の実家をご存じの方がいたり、私が学生時代住んでいた都内の家の目と鼻の先にお住いの方に会ったりと、ご縁と世間の狭さを感じてしまいました。▼何年も前に大榎を離れている方、両親が今も大榎にいる方など、震災当時、私たちが知らないところでたくさんの人達が眠れぬ夜を過ごしていたようです。もしかしたら、現地の様子を知っていた私たちよりもつらい時間があったのではと考えると、会場に集まった方々が暖かい家族のように思えてなりません。▼同じ日大榎では、鮭帰願祭が行われました。例年の鮭つかみ取りのような順番待ちの行列こそ無かったものの、会場は多くの人であふれ、盛り上がりました。今の大榎にとって、鮭はこれ以上ない復興のシンボル。多くの人がふるさとへ帰ってきてくれることを願っています。（佐樹）

編集後記